

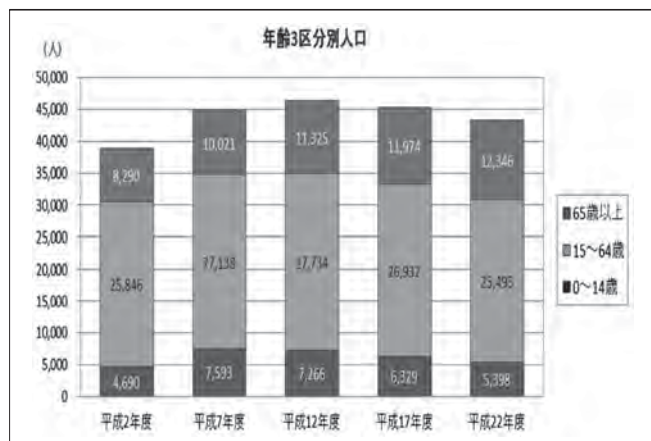
第2章 第1次計画の

現状と成果と課題

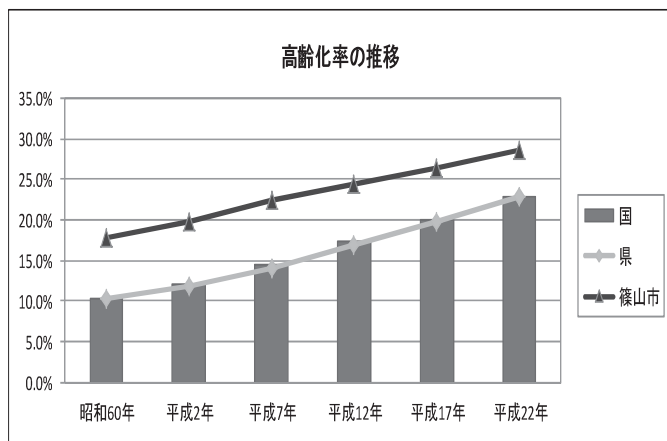
1. 篠山市の人口の推移

本市の人口は平成22年度で45,245人であり、平成17年度に比べ1,982人(4.4%)減少しています。

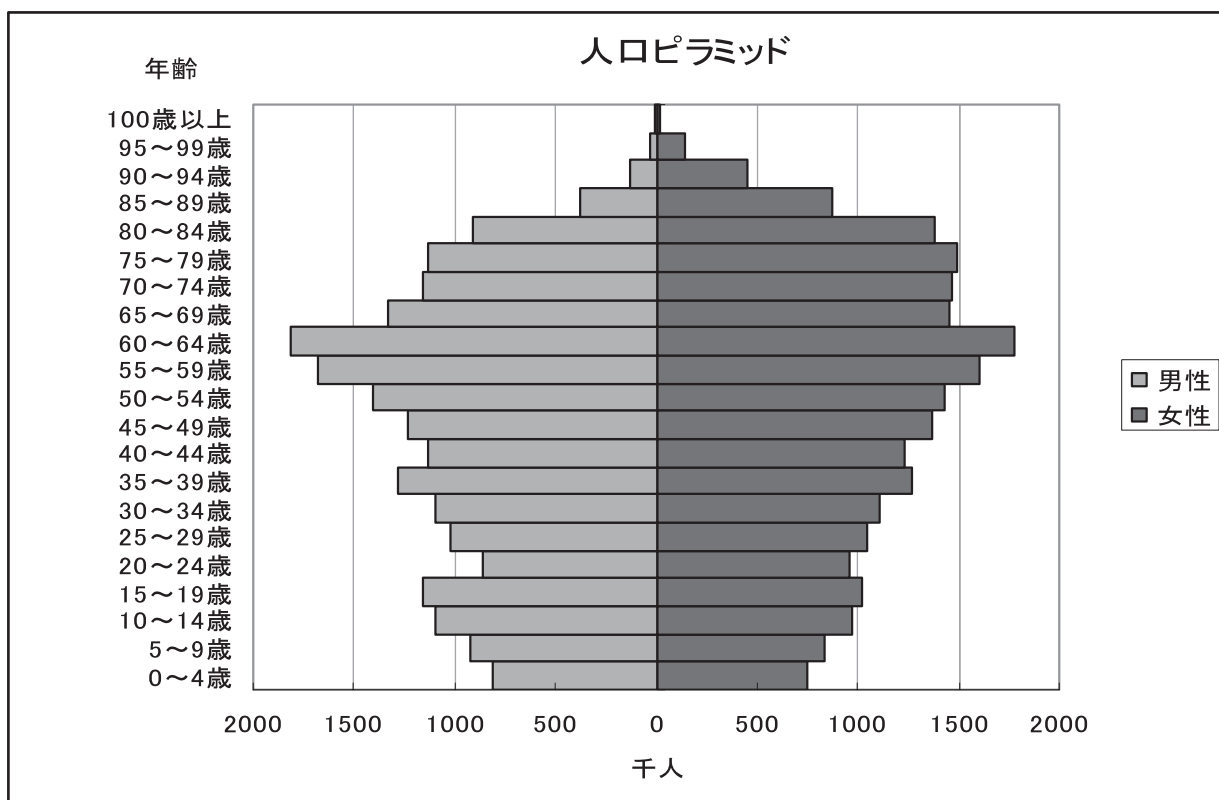
世帯総数は平成22年度で15,317世帯であり、平成17年度に比べ388世帯(2.6%)増加しています。しかし、1世帯当たりの人員は2.8人となり平成17年度に比べ0.2人減少し、単身世帯や夫婦のみ世帯が増加するなど、世帯の細分化が進んでいます。また、高齢化に伴い高齢者の単身世帯も年々増加しています。



国勢調査



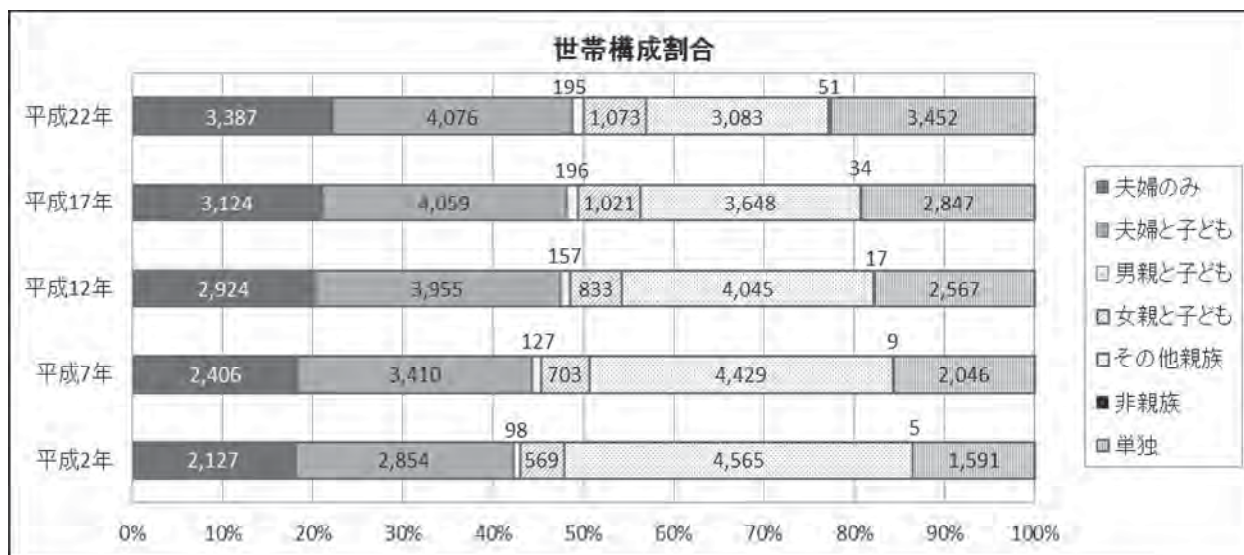
国勢調査



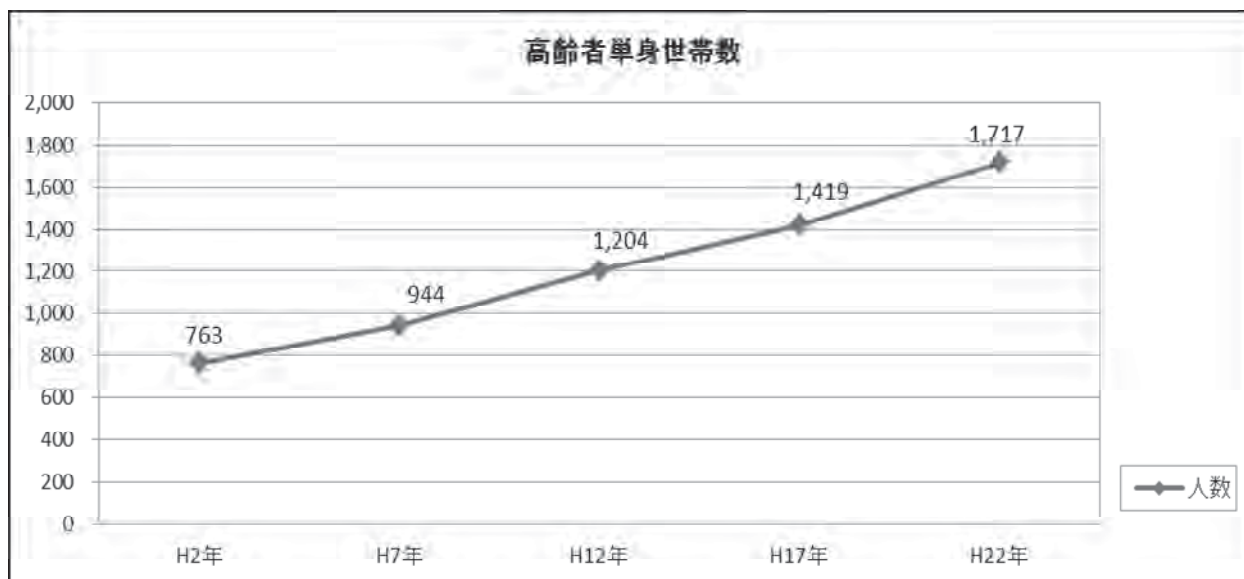
平成22年国勢調査



国勢調査



国勢調査



国勢調査

2. 現状と成果と課題

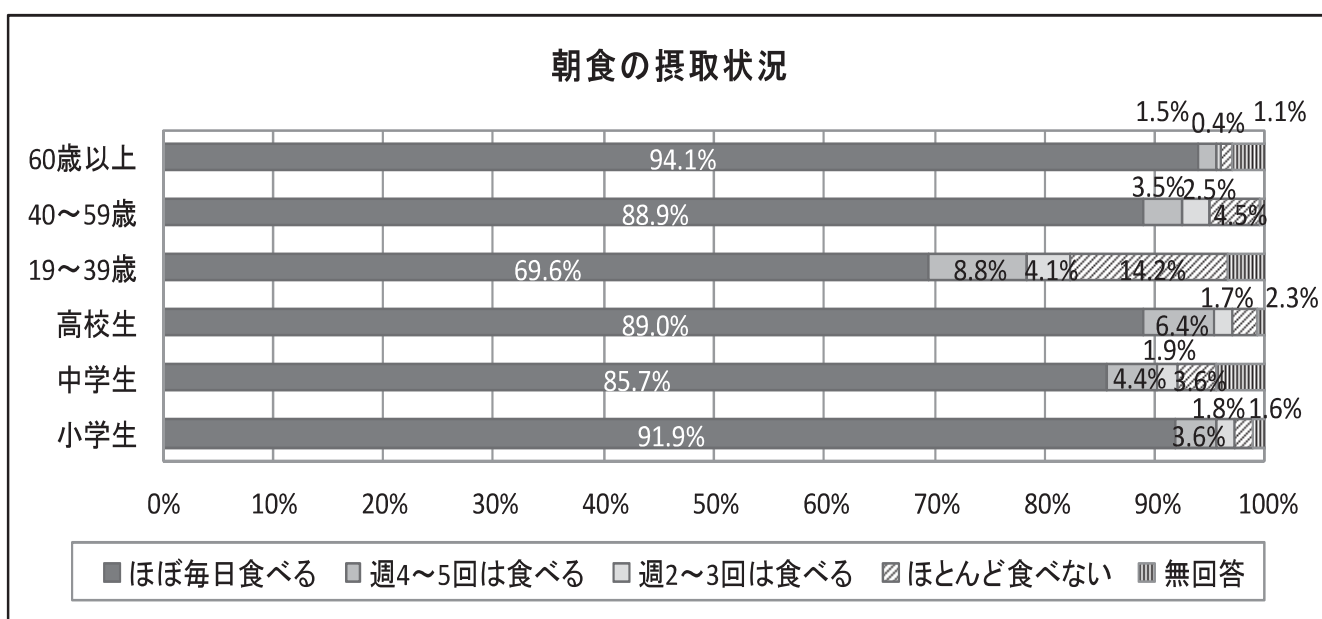
1) 家庭における食育の推進

* 1次計画の目標値の評価

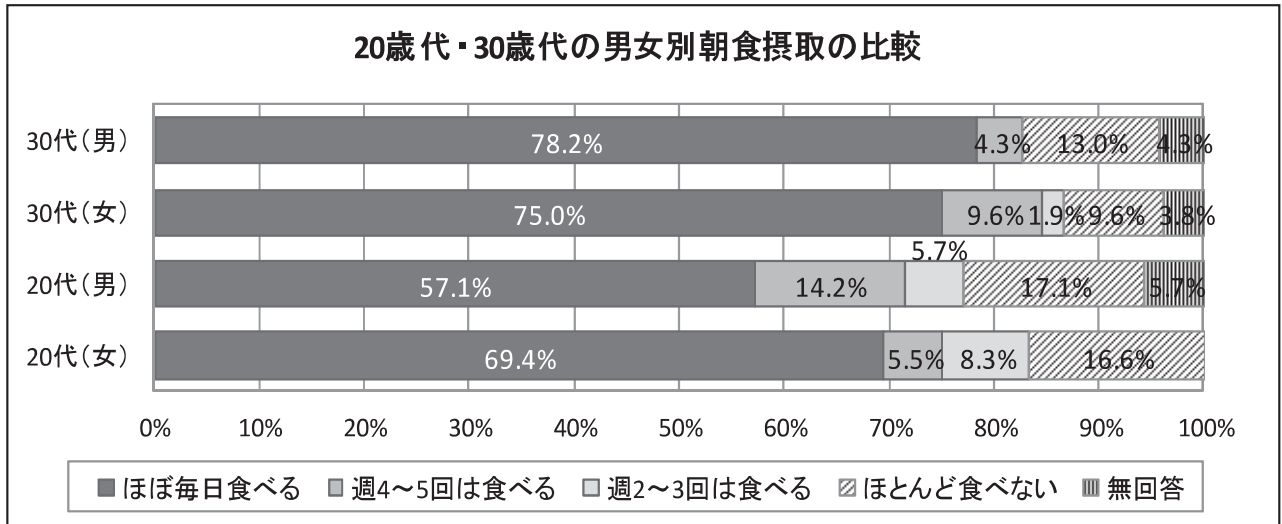
内容	現状値 (計画策定時)	目標値 (平成24年度)	実績値 (平成24年度)
朝食を食べる子どもの割合の増加 【小学2年生、4年生、6年生、中学2年生】	86.9% (平成15年度)	100%	90.4%
3食きちんと食べる子どもの割合の増加 【3歳児】	76.4% (平成15年度)	100%	93.9%
食事のあいさつができる子どもの割合の増加 【1～5歳児】	—	100%	67.1% (1.7ヶ月～3歳児)
おやつ決めている子どもの割合の増加 【3歳児】	72.2% (平成15年度)	80%	81.6%
毎食野菜をとっている人の割合の増加 【小学4年生～高齢期】	38.8% (平成15年度)	増やす	41.8%
食事の適切な内容・量を知っている人の割合の増加 【15歳以上】 (内容を知っている) (量を知っている)	59.8% 60.8% (平成15年度)	増やす	量 55.9% (平成20年度) (丹波圏域)
1日1食以上、家族そろって食事をする人の割合の増加 【15歳以上】	—	増やす	91.0% (中学生・高校生)
内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)を認知している人の割合の増加 【20歳以上】	—	80%	75.3% (19歳以上)
塩分摂取量の減少 【15歳以上】	11.98g (平成15年度)	男性 100g未満 女性 80g未満	男性 10.3g 女性 8.7g (平成20年度) (丹波圏域)

朝食を毎日食べている子どもの割合は、小学生では9割を超えています。

また、年代別で見ると、19～39歳で朝食を食べないと答えている人の割合が多く、その中でも特に20歳代の男性でその傾向が強くなっています。



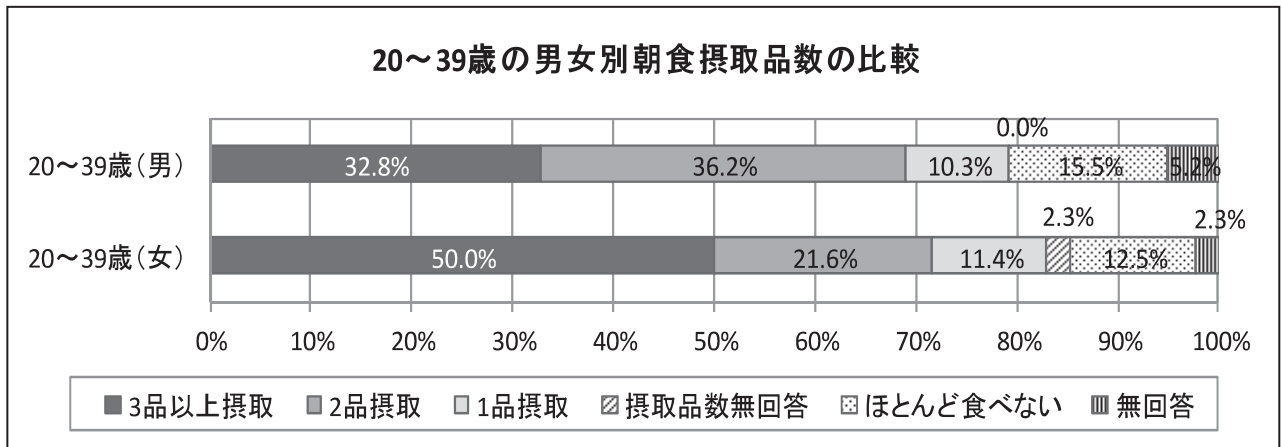
平成24年度篠山市食育と健康についてのアンケート



平成24年度篠山市食育と健康についてのアンケート

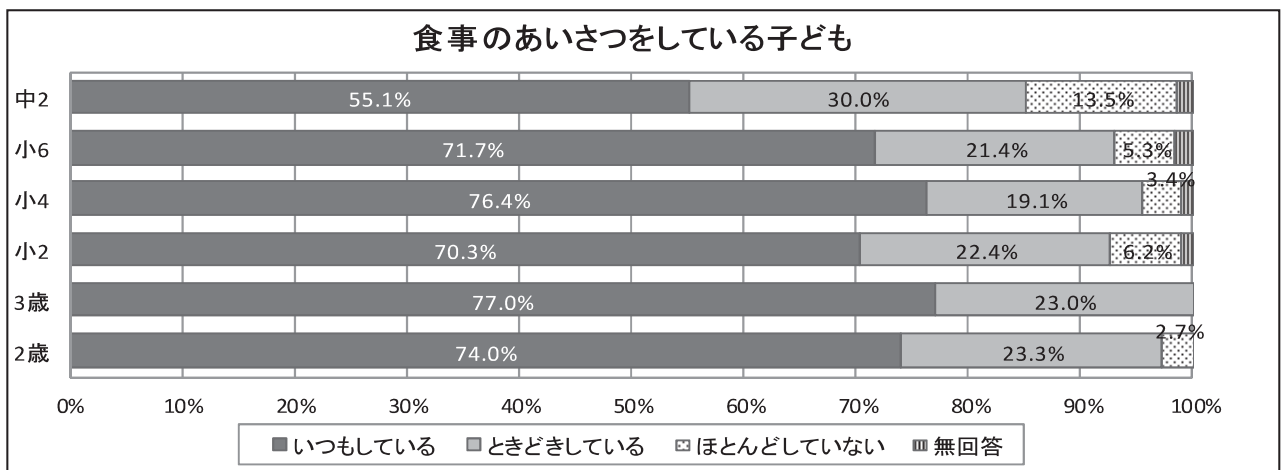
また、朝食を食べている人の中でもパンやごはんの主食、菓子・嗜好飲料のみの単品摂取やパンやコーヒーなどの2品摂取の人が、20～39歳の男性では46.5%もあります。

朝食を食べている人は、次に内容を充実する意識を持ってもらうことが、どの年代でも課題です。



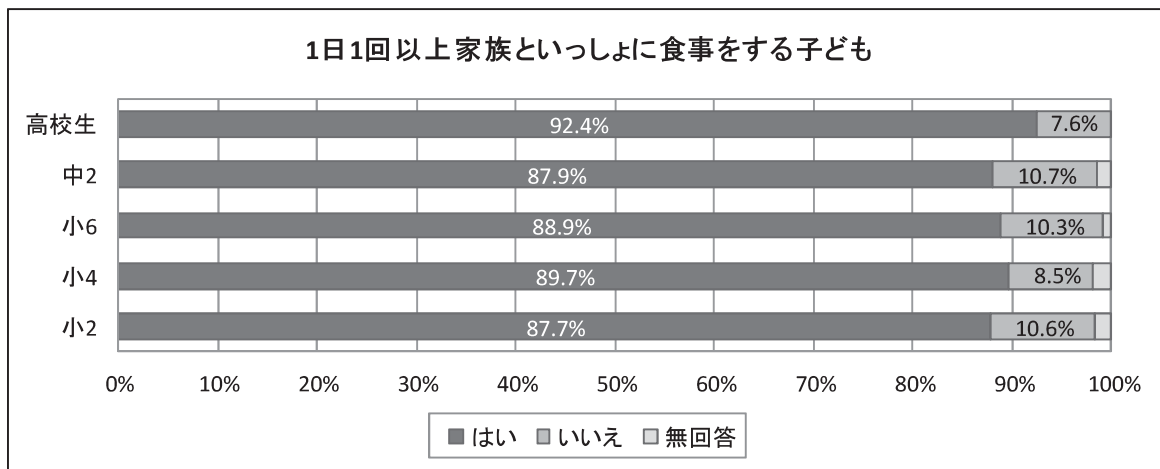
平成24年度篠山市食育と健康についてのアンケート

食事のあいさつは小学生以下では7割強の子どもがいつもしていると答えていますが、中学生になると食事のあいさつをする子どもは少なくなっています。



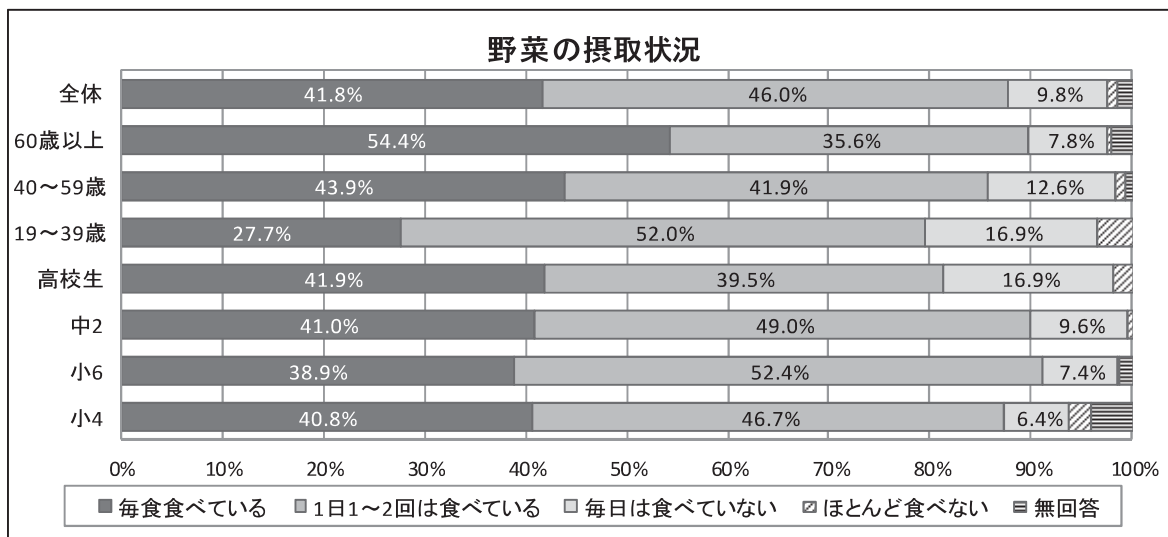
平成24年度篠山市食育と健康についてのアンケート

1日1回以上、家族と一緒に食事をする子どもの割合は約9割で、小学生、中学生、高校生ともに大きな差はありません。



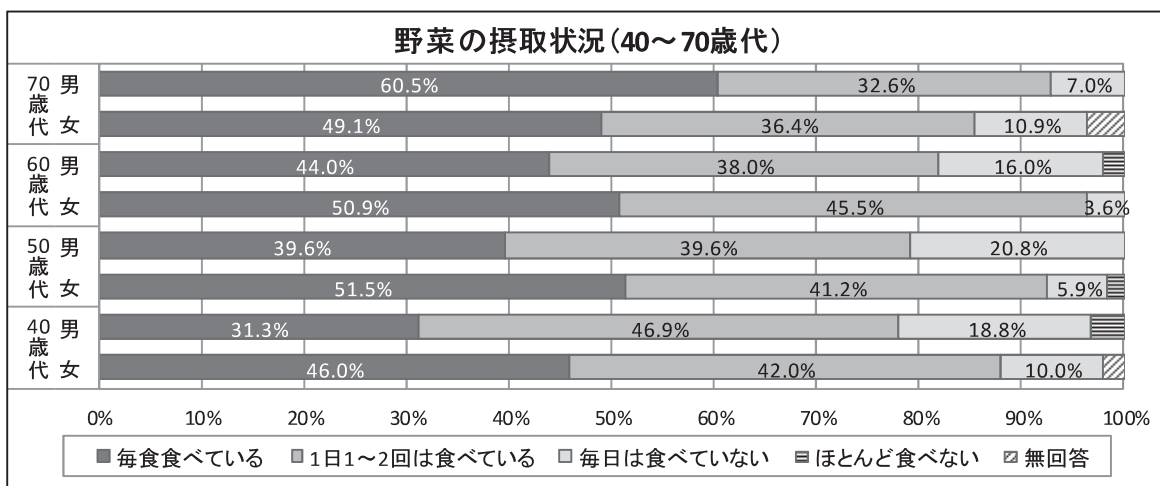
平成24年度篠山市食育と健康についてのアンケート

毎食野菜をとっている人の割合は全体で4割をこえています。年代別で見ると19～39歳において毎食野菜を食べている人の割合が低くなっています。



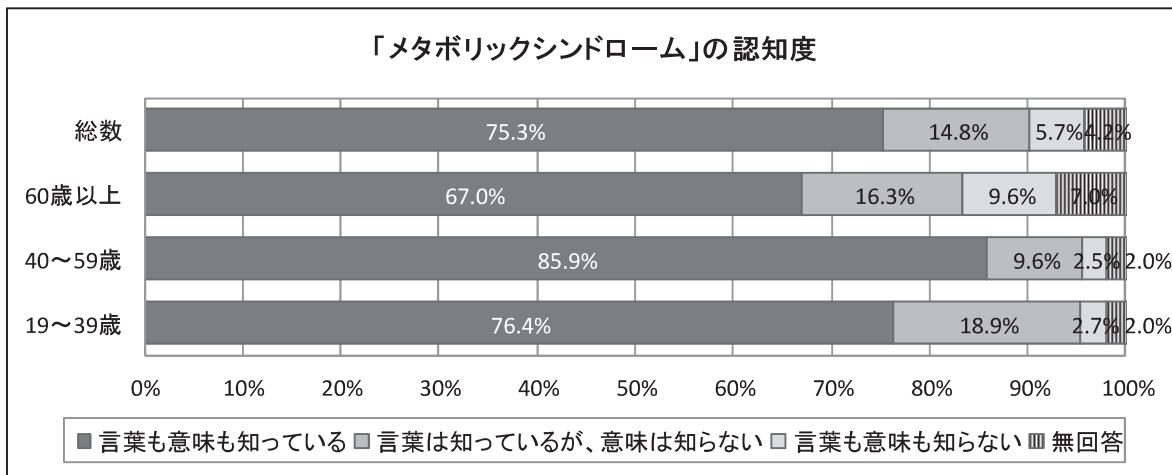
平成24年度篠山市食育と健康についてのアンケート

野菜の摂取状況を性別でみると、毎日は食べていない、ほとんど食べない人の合計は40～60歳代の男性で割合が高くなっています。



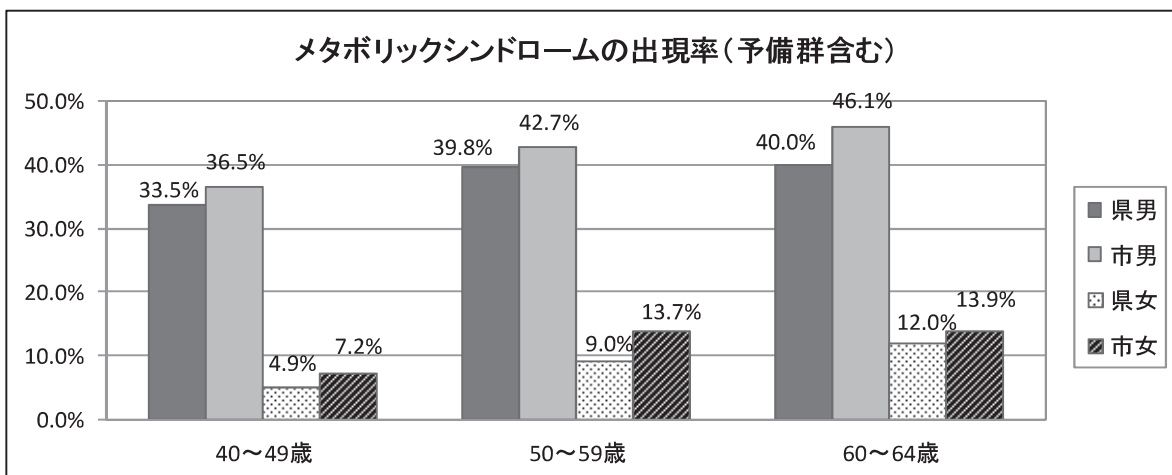
平成24年度篠山市食育と健康についてのアンケート

メタボリックシンドロームを知っている人は75%になっています。中でも特定基本健診の対象となる40～64歳では認知度が高くなっています。



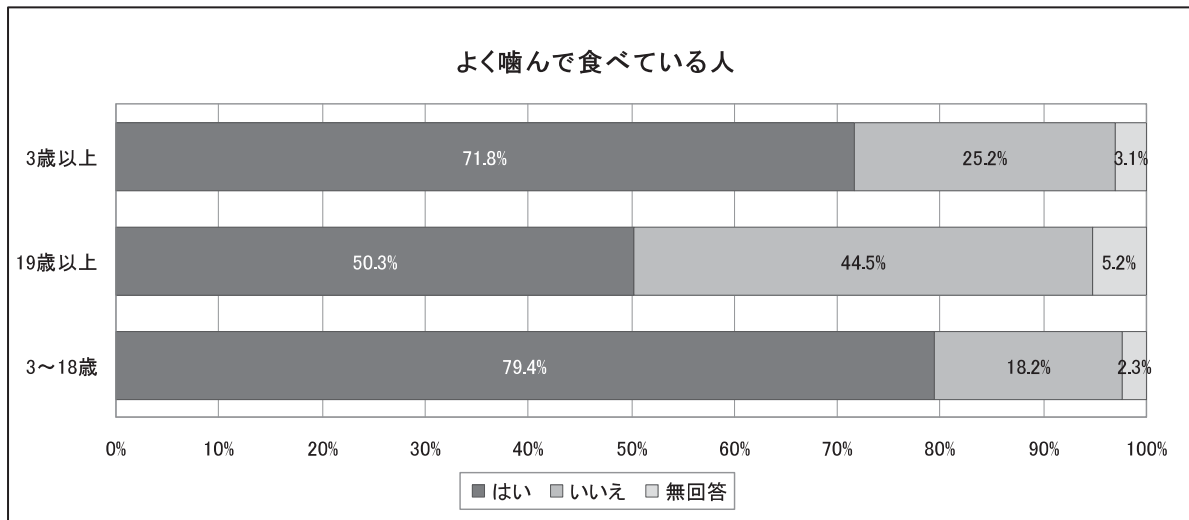
平成24年度篠山市食育と健康についてのアンケート

40～64歳のメタボリックシンドロームの出現率（予備群含む）は男女とも県下平均より高くなっており、特に男性50歳以上では出現率が4割を超えています。

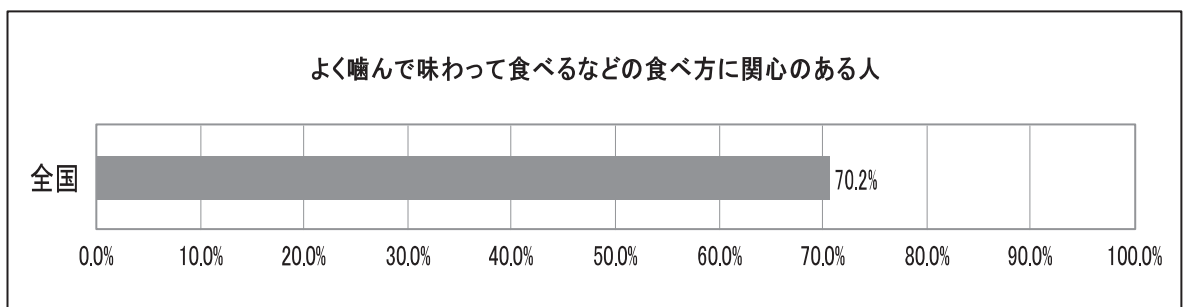


平成23年度厚生連特定基本健診実施分

よく噛んで食べている人の割合は3～18歳以下で79.4%と高く、19歳以上では50.3%と低くなっています。全国ではよく噛んで味わって食べるなどの食べ方に関心のある成人の割合が70.2%となっており、本市の成人はよく噛んで食べる意識を持つことが課題です。

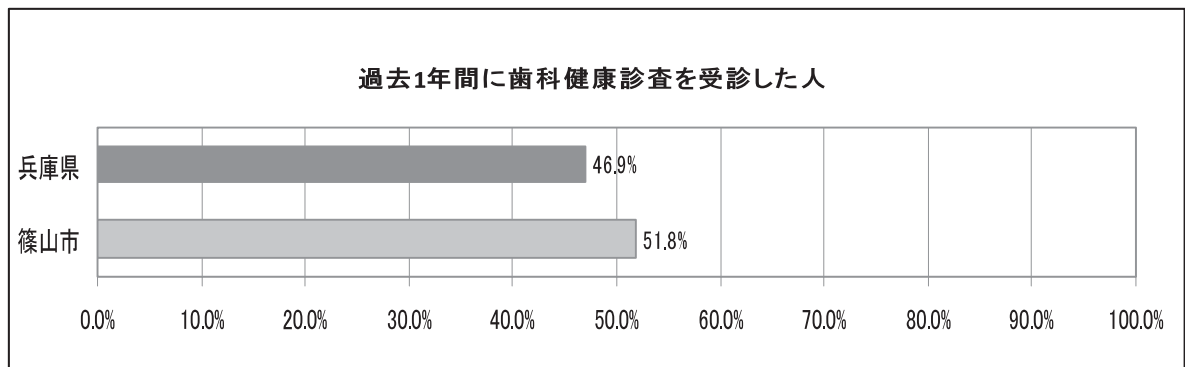


平成24年度篠山市食育と健康についてのアンケート



平成22年度内閣府食育に関する意識調査

過去1年間に歯科健診を受けている成人の割合は51.8%です。
生涯にわたって美味しく食事を楽しむためにも、かかりつけ医を持ち、歯のセルフケアに関心を持つことが大切です。

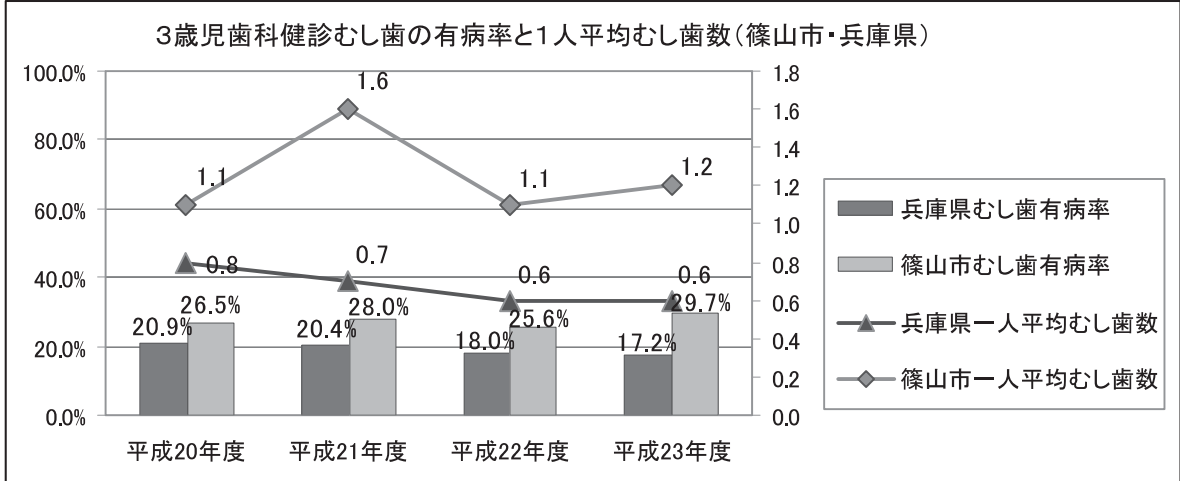


平成23年度兵庫県健康づくり実態調査
平成24年度篠山市食育と健康に関するアンケート

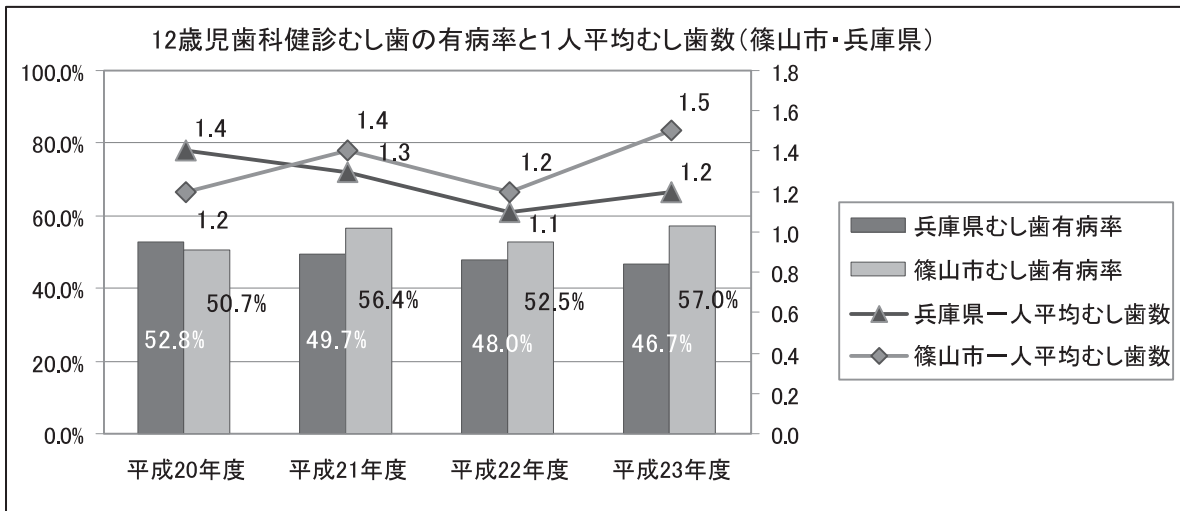
本市では、子どものむし歯有病率が高く、特に乳幼児でのむし歯有病率が県平均より高い状況が続いています。むし歯を予防するためには食べ物の内容、食べる時間、食べ方など、健全な食生活を実践することも大切です。

約半数の子どもたちがフッ化物配合歯みがき剤を使用しています。

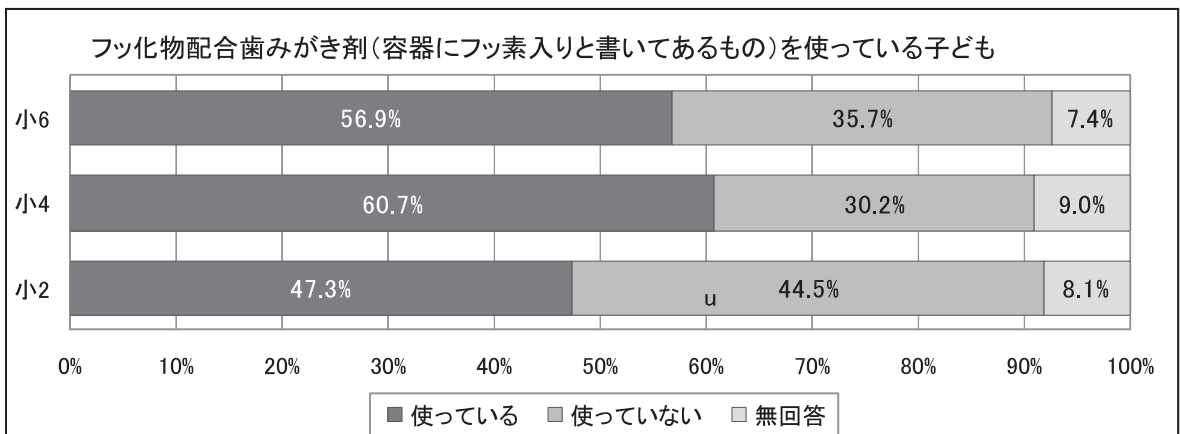
学齢期のむし歯予防は、規則正しい食生活、歯垢清掃、フッ化物の応用が基本です。



3歳児歯科健診結果調査



保育所、幼稚園及び学校における歯科健診結果調査



平成24年度篠山市食育と健康についてのアンケート

2) 保育園、幼稚園、学校における食育の推進

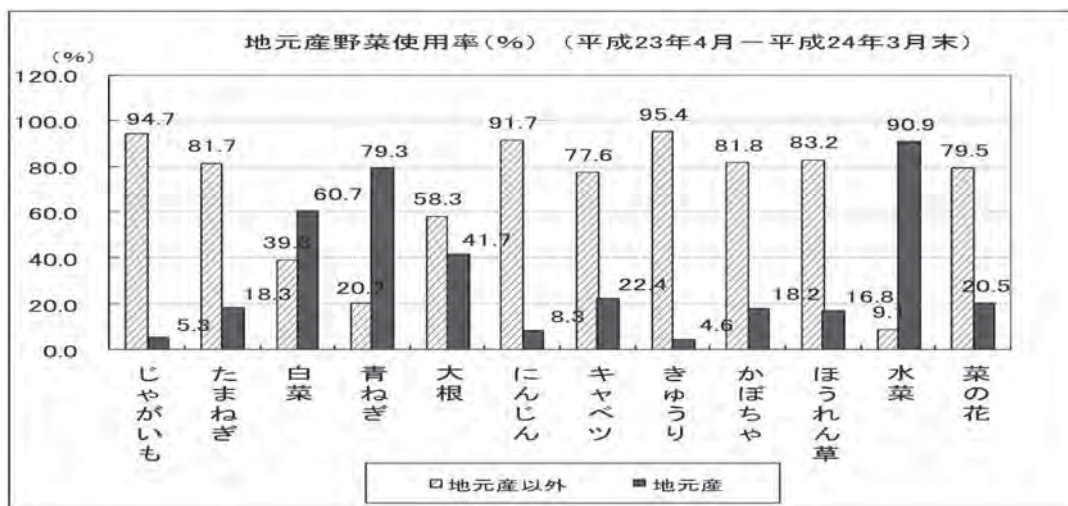
* 1次計画の目標値の評価

内容	現状値 (計画策定時)	目標値 (平成24年度)	実績値 (平成24年度)
篠山市の特産物について知っている子どもの割合の増加【4、5歳児】	—	増やす	—
野菜嫌いな子どもの割合の減少【3、4、5歳児】	—	80%	—
ふるさと献立の実施回数の増加	1回/月 (平成19年度)	1回以上/月	1~2回/月 (平成23年度)
給食の試食会を実施している幼稚園・学校の増加	—	全幼稚園・学校	全幼稚園・小中学校、特別支援学校の約半数で実施(平成23年度)
栄養教諭・学校栄養職員による給食指導の実施回数の増加	小学校13/19校 中学校1/5校 (平成18年度)	全学校1回/年	小学校3校中学校2校に 毎週1~2回実施
学校給食における地元野菜の使用品目の増加	7品目 (平成19年度)	14品目	21品目 (平成23年度)
学校給食に関するアンケートの実施頻度の増加	随時	2年に1回	給食ノートを使って実態を把握(平成23年度)
給食センターへの見学を実施する幼稚園・学校の増加	幼稚園2校 小学校6校 中学校1校 (平成19年度)	増やす	幼稚園6校、小学校7校 中学校2校、特別支援学校1校、その他1件 (平成23年度)

平成23年度の学校給食における地元野菜の使用品目は21品目で、平成19年度の7品目から大きく増えています。その内訳は、東部給食センターと西部給食センター共通の12品目以外に、山の芋・小豆・黒枝豆・かぶ・大豆・黒大豆・うすいえんどう・あじみ菜・ぶどうの計21品目で、市内の5団体より購入されています。

また、学校給食に関するアンケート調査は実施していませんが、アンケートに代わるものとして、各学校と給食センターを往来する給食ノートをつくり、先生や子どもたちの感想や、意見を毎日聞くことができます。

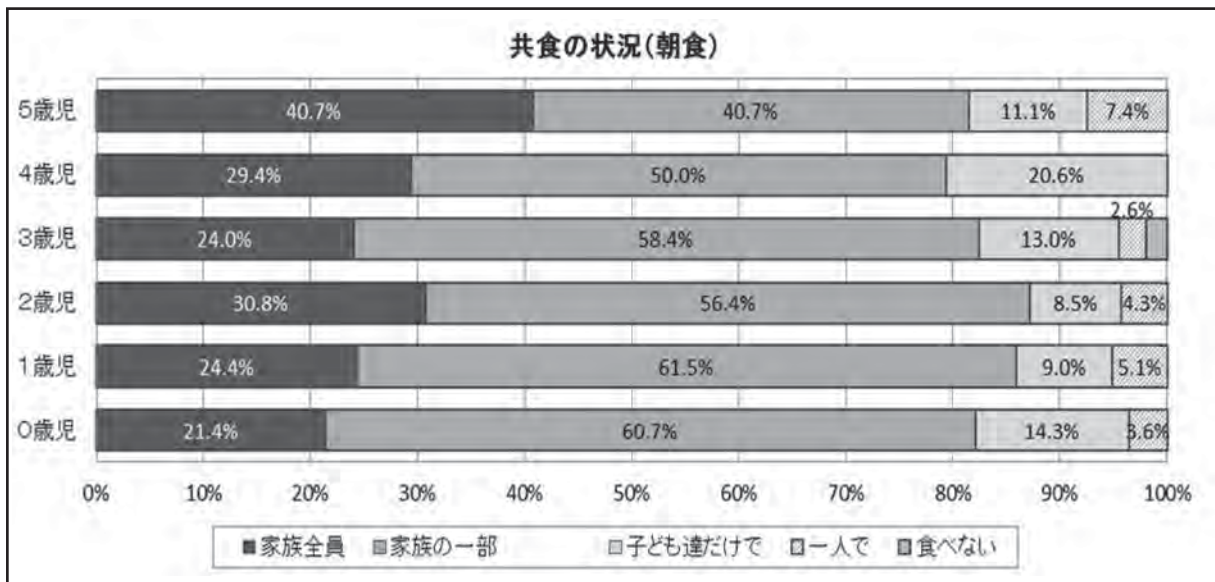
平成23年度 地元野菜納入実績(両センター共通品目)



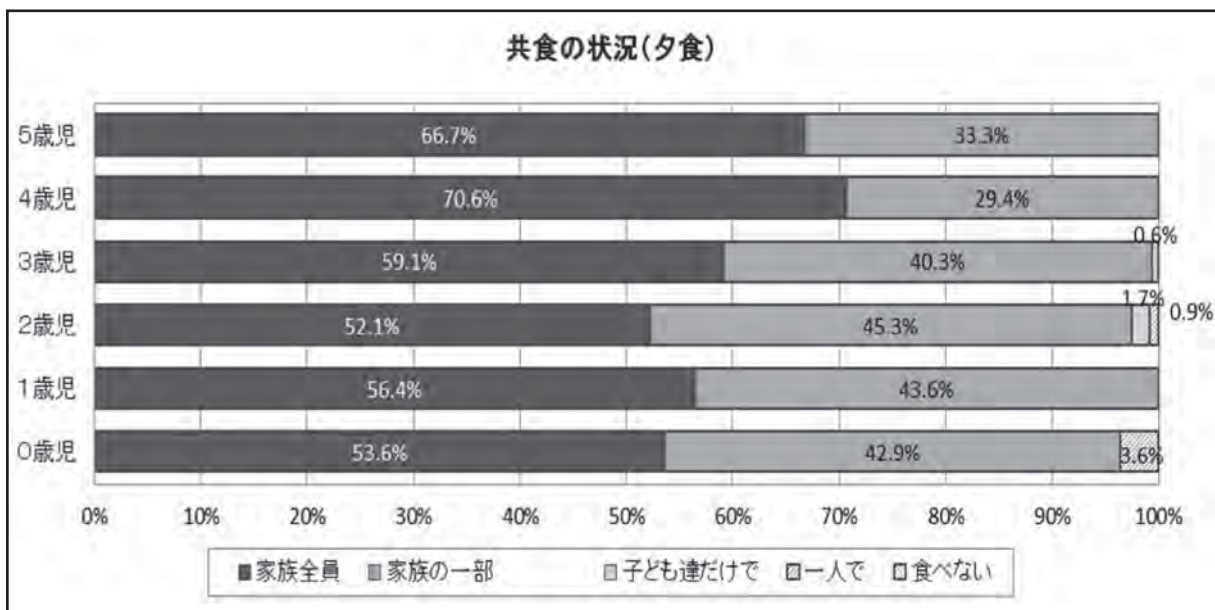
保育園児では多くの場合朝食は、どの年代でも家族の誰かと一緒に食べていますが、一人で食べる、または食べないという子どもも少数ですがありました。

しかし、夕食は家族の全員または誰かと食べている保育園児がほとんどでした。

家族で楽しく食事をすることは、子どもに食への関心を持たせ、食事の楽しさを知る大切な機会となります。



平成24年度篠山市公私立保育園食育アンケート

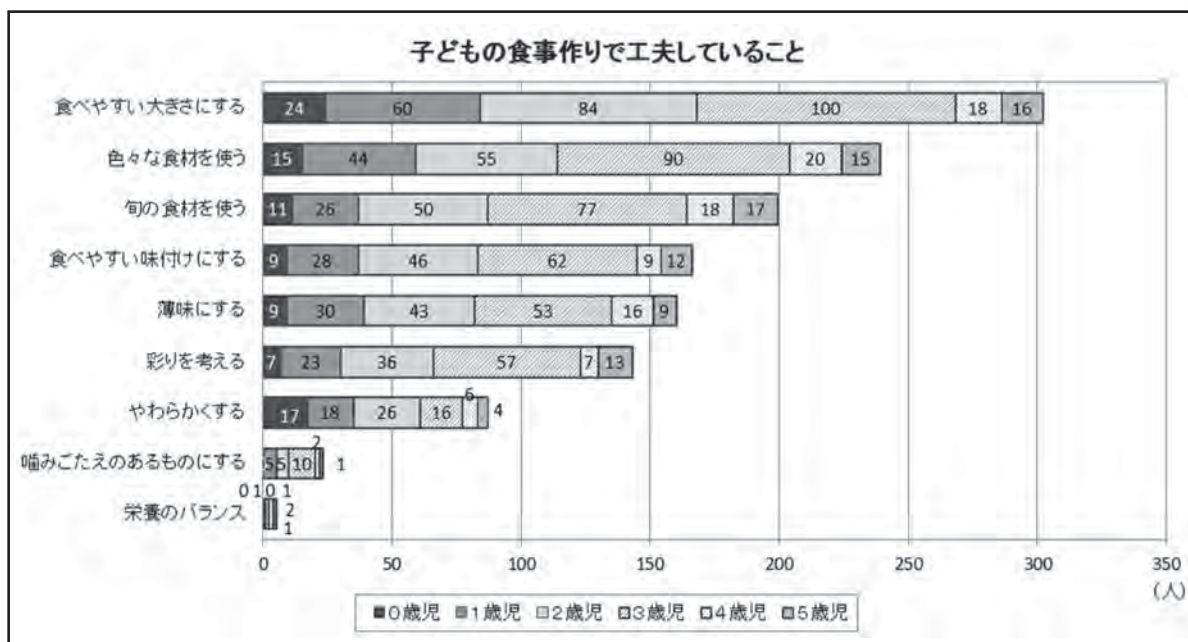


平成24年度篠山市公私立保育園食育アンケート

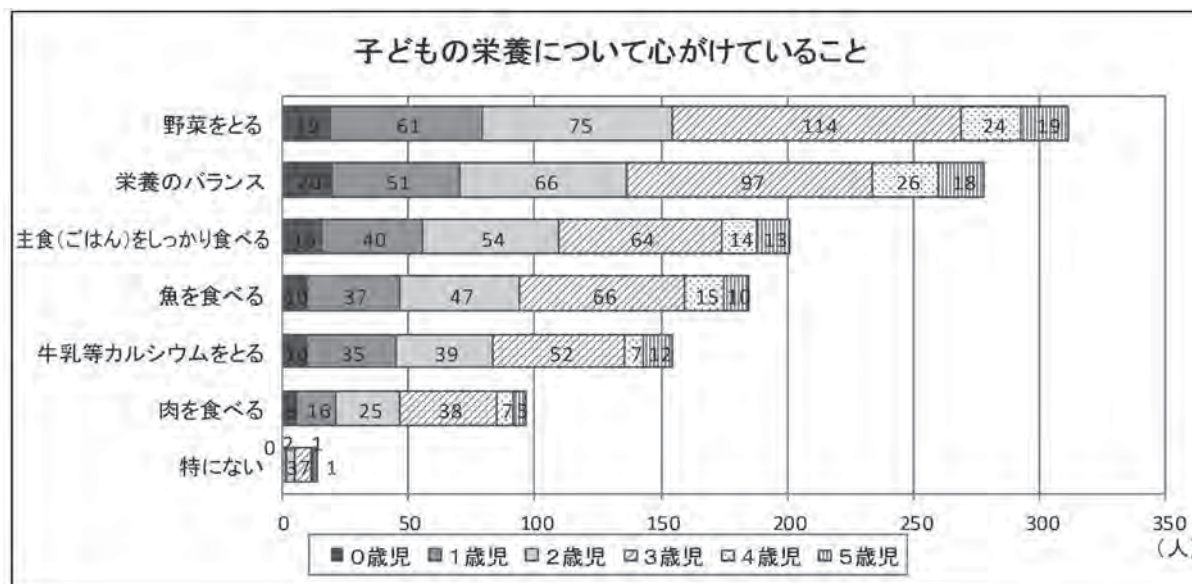
子どもの食事を作るときは、食べやすい大きさや味付け、色々な食材や旬の食材を使うように工夫している保護者が多くみられます。しかし、3歳を過ぎたら噛みごたえのある食事の大切さについても、啓発していく必要があります。

子どもの栄養について心がけていることについては、野菜をとる、栄養のバランス、主食（ごはん）をしっかり食べる、の順に多くなっています。

保育園では、「園だより」「給食だより」等の発行を通して、今後も保護者へ食育に関する情報提供を行っていきます。



平成24年度篠山市公私立保育園食育アンケート



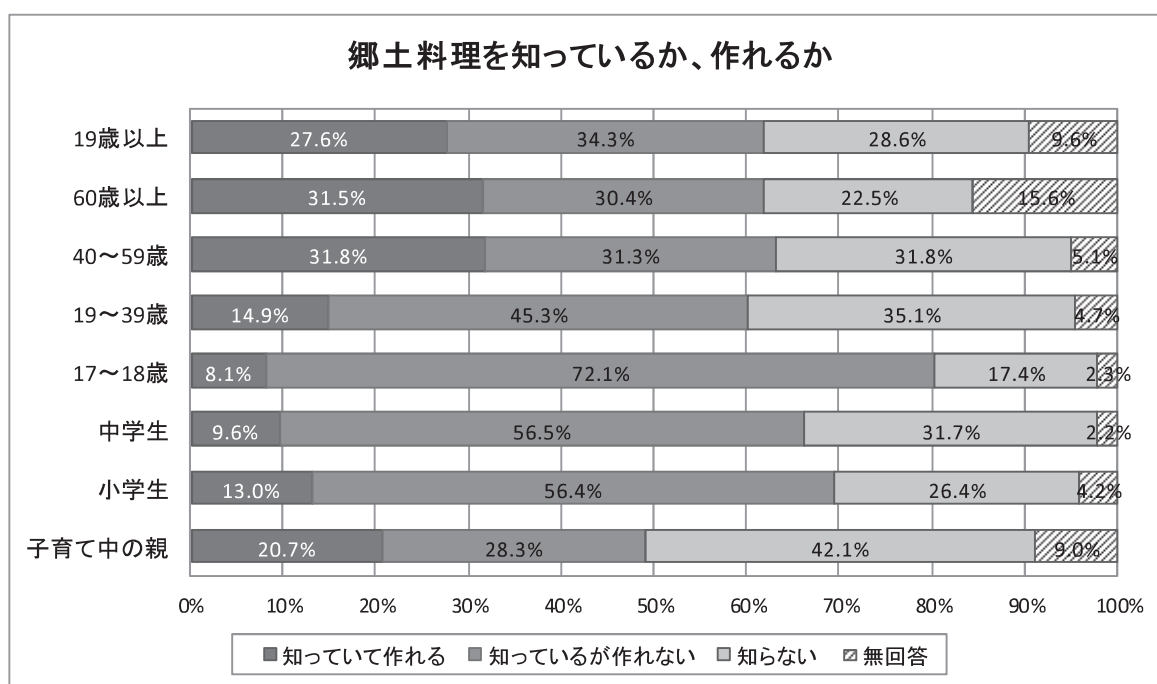
平成24年度篠山市公私立保育園食育アンケート

3) 地域における食育の推進

* 1次計画の目標値の評価

内容	現状値 (計画策定時)	目標値 (平成24年度)	実績値 (平成24年度)
篠山市の伝統料理を知っている人・作ることができる人の割合の増加【20歳以上】 (知っている人) (作ることができる人)	— —	60%以上 30%以上	郷土料理 61.9% 27.6% 【19歳以上】
地元でとれた農産物を買っている人の割合の増加【20歳以上】	—	増やす	意識して食べる人 50%

「郷土料理を知っている人」の割合は、20歳以上で目標値を上回る61.9%、「郷土料理を知っていて作れる人」の割合は、目標値を少し下回る27.6%でした。



平成24年度篠山市食育と健康についてのアンケート

小学生に「知っていて作れる」と答えた人が多かったのは、学校で米や黒豆などの栽培から収穫、調理までを食育の授業の中に取り入れてきた成果と考えられます。

また、子育て中の親では「知っていて作れる」と答えた人が他の年代に比べて多い反面、「知らない」と答えた人が半数弱もあります。これは、結婚等により他の地域から篠山に住むようになった人もあるのではないかと考えられます。

40歳以上の年代では、知っていて作れる人が3割強あるのに対し、39歳以下の年代では知っているが作れない人がほぼ半数以上を占めています。豊かな自然に育まれた篠山の食文化を次世代へつなげるために、若い世代へ郷土料理の作り方を伝えていくことが課題です。

篠山でとれた農産物を意識して食べている人の割合は全体では50%です。

(P23 「篠山でとれた農産物を意識して食べているか」のグラフ 参照)

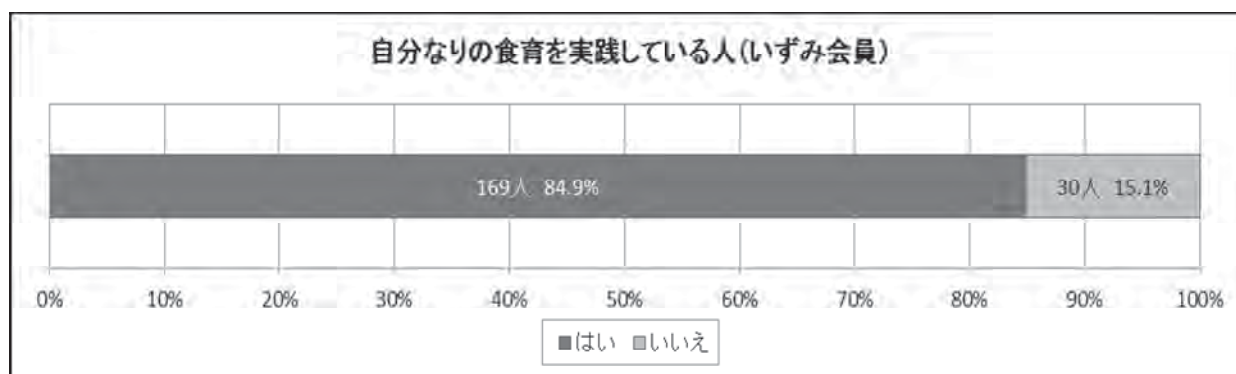
地域での食育活動の取組では、平成23年度の篠山市いずみ会の活動内容をみると、地域に向けてさまざまな年代に対して食育活動を行っていることがわかります。

平成23年度篠山市いずみ会活動実績

内 容	回 数	人 数
親子の食育活動	8回	269人
男性の料理教室	10回	145人
高齢者の食育活動	66回	1,683人
食育推進事業	41回	1,163人
地域の行事への参加	63回	6,903人
計	188回	10,163人

平成24年度篠山市いずみ会総会資料より

いずみ会員の食育に関する意識を、平成24年度に行った食育セルフチェックでみると、自分なりの食育を実践している人の割合は84.9%で、いずみ会活動を通して自らが食育活動を実践している事がうかがえます。



平成24年度食育セルフチェックより

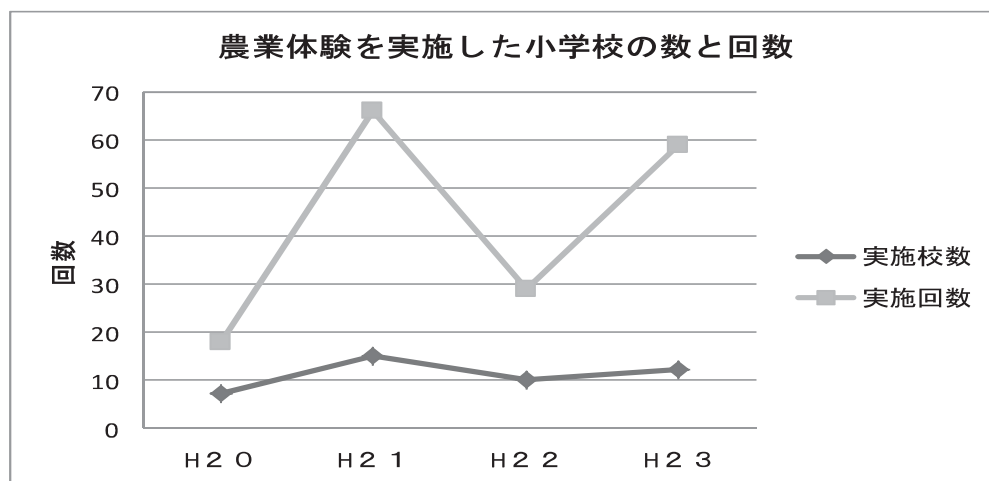
今後は食育活動をしている様々な団体が密に連携を図り、地域での食育活動を活性化していくことが大切です。

4) 篠山の豊かな農産物の活用の推進

* 1次計画の目標値の評価

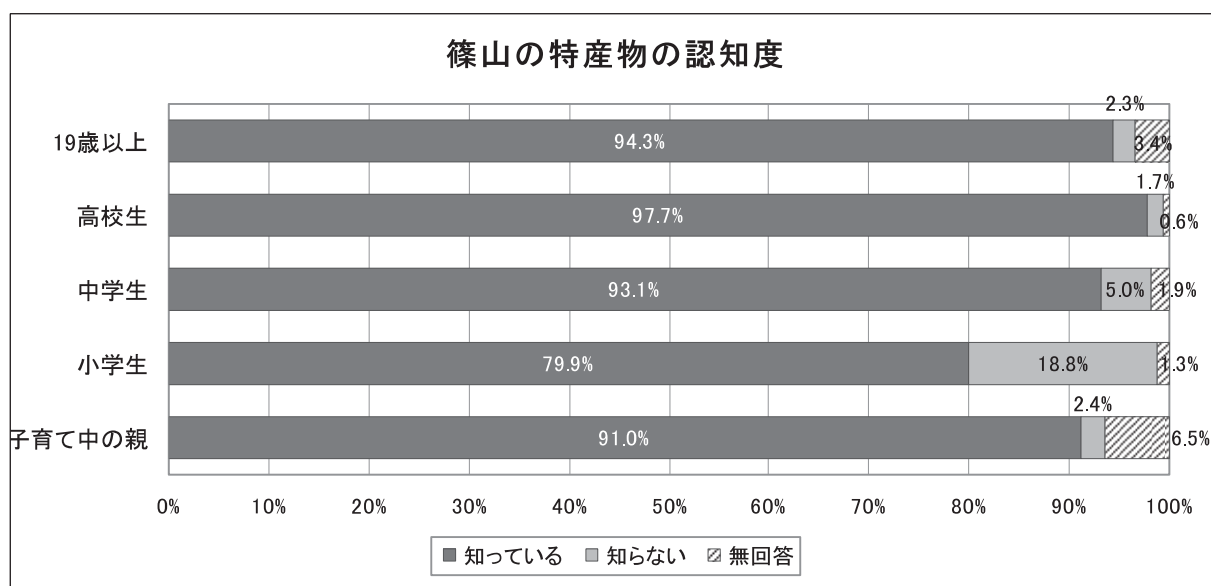
内容	現状値 (計画策定時)	目標値 (平成24年度)	実績 (平成24年度)
農作業体験をした児童の増加 →児童の農作業体験実施回数 【小学生】	—	増やす	12小学校で 59回実施 (平成23年度) 農業委員会実施分
丹波篠山黒まめ検定の受験者	—	増やす	—

農業体験を実施した小学校の数と回数（農業委員会実施分）をみると、平成20年度では小学校7校で18回の実施でしたが平成23年度は、12小学校で59回実施しています。



農業委員会調べ

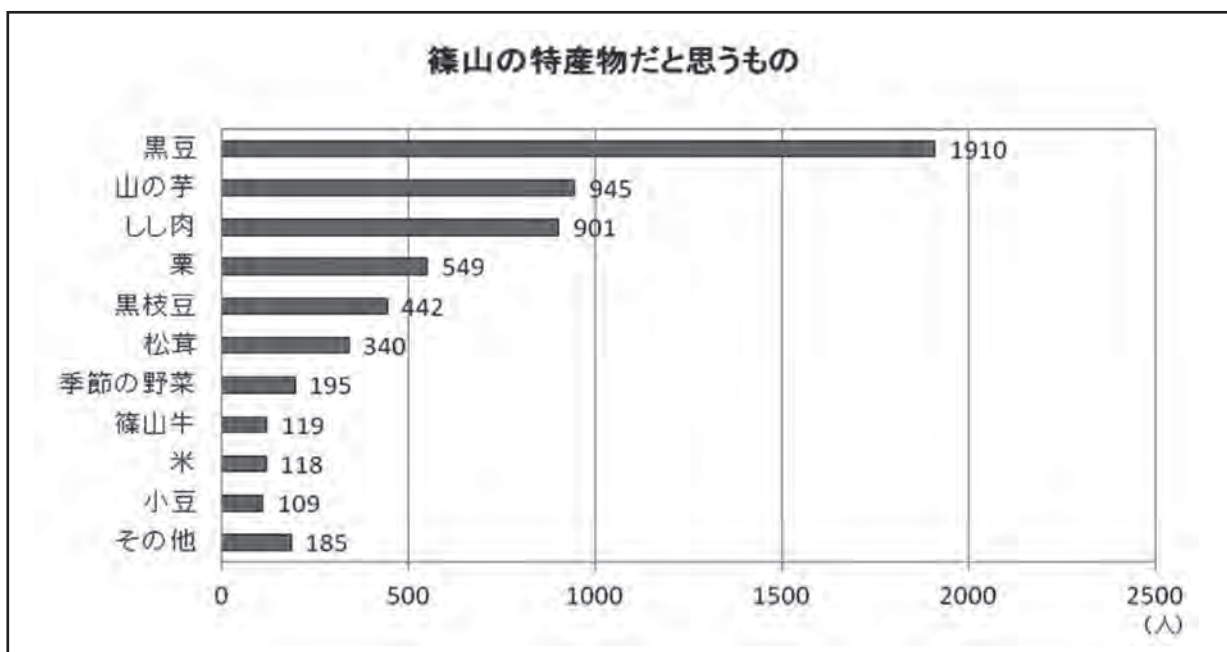
「丹波篠山黒まめ検定」は平成20年、21年と実施した結果、一定の成果が挙げられたことと、特産物のPRに注力するという目的のもと、発展的に解消しました。



平成24年度篠山市食育と健康についてのアンケート

篠山の特産物の認知度をみると、中学生以上では9割以上の方が知っていると答えています。

また、篠山の特産物だと思うものをあげてもらった結果では、やはり黒豆をあげる人が最も多く、山の芋、しし肉、栗と続いて黒枝豆があがっています。その他では、お茶・山椒・鹿肉などをあげた人もありました。



平成24年度篠山市食育と健康についてのアンケート

調査の中で、特産物に一番多く上がっていた黒大豆は、篠山が全国に誇る特産物です。この黒大豆の生産量とシェアをみると平成21年度のデータでは、兵庫県シェアは41%、そのうちの本市のシェアは58%となっています。

丹波黒の生産量と兵庫県のシェア（兵庫県丹波黒振興協議会 HP より）

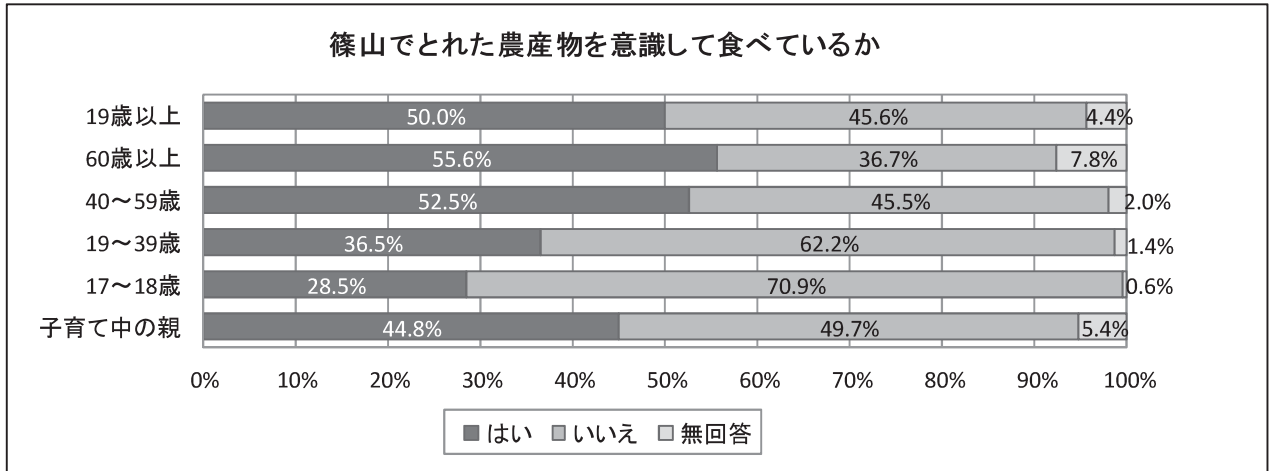
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
兵庫県 (t)	1,670	1,499	1,951	1,661
岡山県 (t)	2,410	1,371	2,060	1,476
京都府 (t)	481	284	429	381
滋賀県 (t)	1,220	742	405	314
全国計 (t)	6,137	4,257	5,134	4,101

兵庫県シェア	27%	35%	38%	41%
--------	-----	-----	-----	-----

（平成18年度は国統計、平成19～20年度は兵庫県調べ）

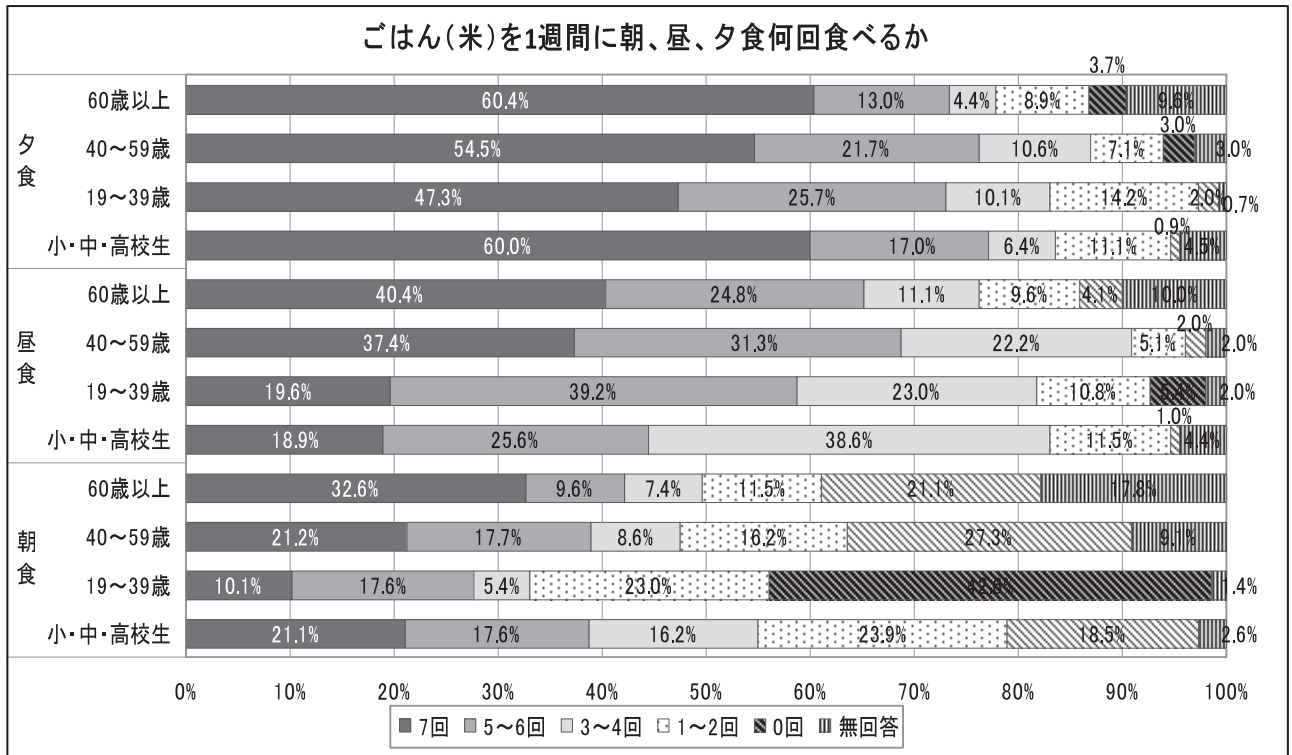
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
篠山市 (t)	994	718	1,085	964
篠山市シェア	60%	48%	56%	58%

篠山でとれた農産物を意識して食べているかという問いに対して、40歳以上で意識して食べていると答えた人が多いのは、家庭で自家野菜を作って食べている人が多いためではないかと考えられます。



平成24年度篠山市食育と健康についてのアンケート

1週間のうち、朝食、昼食、夕食にごはん（米）を何回食べるかをみると、朝食、昼食にごはんを1回も食べないと答えた人が多かったのは、19～39歳の若い年代でした。特に、朝食では4割強の人が1週間のうち1回もごはん（米）を食べていませんでした。また、家族で食事をする機会が多いと考えられる朝食、夕食で、毎日ごはんを食べる人が多いのは小・中・高校生と60歳以上の人でした。主食に米を利用することは日本型食生活の実践につながり、食糧自給率の向上にも欠かせないことから、主食として米の活用を工夫する食育活動も重要です。



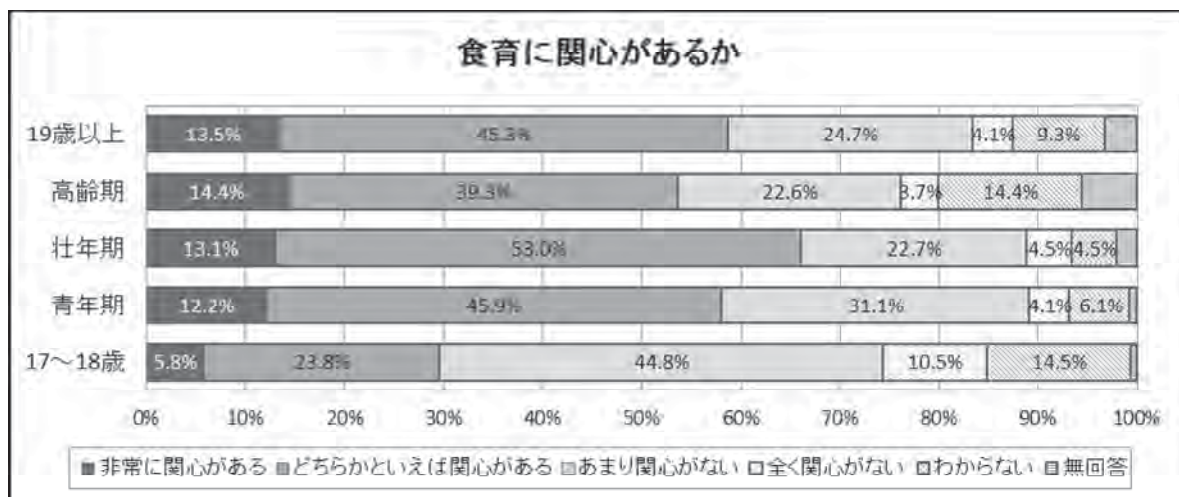
平成24年度篠山市食育と健康についてのアンケート

5) 食育を進めるための環境づくりの推進

* 1次計画の目標値の評価

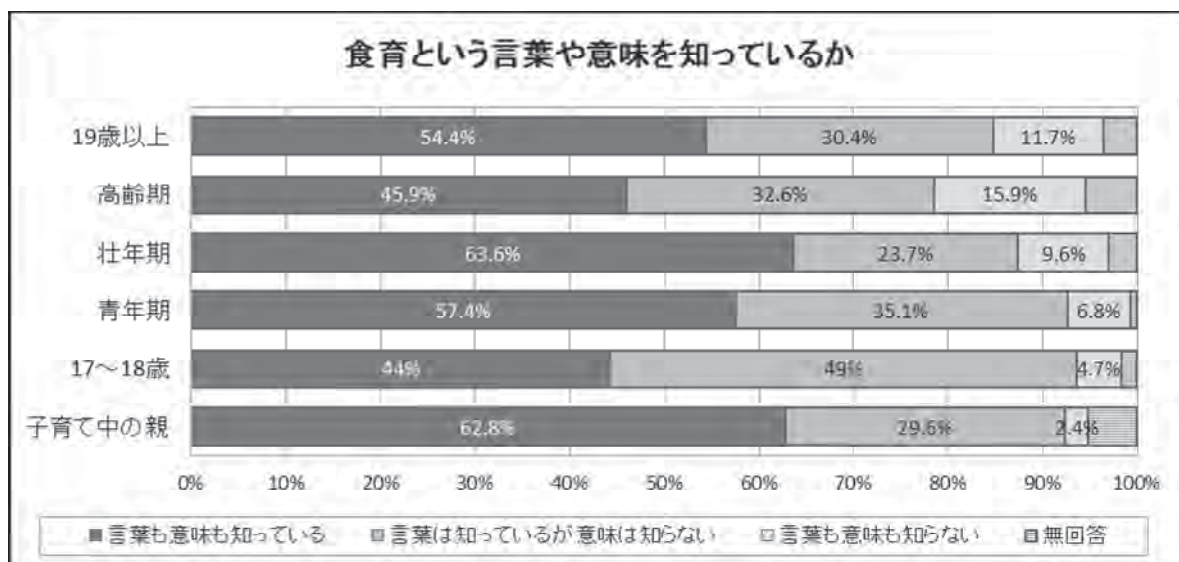
内容	現状値 (計画策定時)	目標値 (平成24年度)	実績 (平成24年度)
食育に関心を持っている人の割合の増加 【20歳以上】	—	90%	【19歳以上】 58.8% (平成24年度)

「食育に関心を持っている人」の割合は、「非常に関心がある」「どちらかといえば関心がある」と答えた人が、19歳以上では58.8%と過半数を超えています。



平成24年度篠山市食育と健康についてのアンケート

「食育という言葉を知っている人」の割合は、19歳以上では84.8%です。しかし、言葉を知っている人の中で意味は知らないと答えた人は30.4%あります。



平成24年度篠山市食育と健康についてのアンケート

今後は食育への関心や意識を高め市民ひとり一人が日々の生活の中で食育を実践していく環境づくりを進めていくことが大切です。